



あいかんきょう



2015/1/1
会報・第122号



「こんな感じかな」

撮影地：東山動物園
撮影日：平成26年12月6日

提供：藤田 孝夫氏
東亜環境サービス(株)



四季折々

先週親戚の四歳の女の子を一日我が家で預かることになった。我が家の小六の娘と楽しく遊んでいたもののやがて飽きてきたのでお菓子作りをすることになった。クッキーが食べたいという。クッキー作りにはバターは欠かせない。しかし世間はテレビで取り上げられるほどの空前のバター不足。人使いの荒い妻は「どこにも売ってないと思うけど探してきて」と。近所のスーパーを五軒探しまわったがやはり一箱も見つからなかった。▼直接の原因は夏の天候不順らしいが、根本的な原因は日本の酪農家の急激な減少、生産の仕組み、輸入制限にあるらしい。最近の円安による輸入飼料の高騰。とても採算の合うものではなくてしまったようである。乳製品のうち比較的保存のきくバターは生乳が不足気味の現在逆に生産が後回しにされるらしい。酪農家保護のためにバターの輸入には制限がされており日本国内で不足しているからと言ってすぐに輸入量を増やせるものではないらしい。バターから社会の仕組みの問題をいろいろと実感する一日だった。▼お菓子のほうは結局ホットケーキミックスを使ってリンゴのパンケーキを作りましたとさ。

年頭のご挨拶

(一社)愛知県環境測定分析協会

代表理事 河野達郎



新年、明けましておめでとう
ございます。

愛環協会員各位並びに賛助会
員の皆様様方、本年もどうぞよ
ろしくお願い申し上げます。

師走に総選挙があり、慌ただ
しいなかで新年を迎えられたの
ではないでしょうか。

昨年の日本経済は、株価も一
万五千円から一万七千円を超え
る水準にまで上昇しました。し
かし、消費税が8%に上がった
影響もあり、製造業を中心に景
況感は先行き横ばいと言われて
いるようです。

環境面では、今までに経験し
たことのない激しい集中豪雨に
よる河川の氾濫や土砂崩れに
よって、多くの被害が毎年のよ
うに発生しています。また、中国
では微小粒子状物質PM2.5
(5)の発生に改善の兆しは見ら
れていません。私たちの環境面
の不安定さは、予想を超えるレ

ベルで進行しているのかもしれ
ません。

さて、昨年十一月、仙台市にて
日環協・経営者セミナーが開催
されました。

そのセミナーのテーマは「危
機管理」であり、東日本震災時
の様々な環境汚染の実態や、分
析機関においてどのような事前
対策に効果があり、また何が機
能しなかったのかを、講演会や
パネルディスカッションで紹介
いただきました。そして愛環協
からは、三年前に愛知県と締結
させていただいた「災害緊急時
の化学物質調査」の協定の背景
や経緯についても紹介する機会
が得られ、大きな反響をいただ
きました。

愛環協の会員のなかには、東
海地震や東南海地震の発生が危
惧される中、分析試験所の被害
を最小限に抑えて、より迅速に
事業に復帰できるように、BC
P(事業継続計画)の策定や定期
的な訓練や教育を始めておられ
るところもあります。

災害時だからこそ化学物質の
飛散や漏えいについて緊急調査
や分析を行うことが、各分析機
関に期待されており、自治体の
緊急調査や測定分析にしっかり
連携していきたいと考えていま
す。

日環協では「環境計量証明事
業者の実態調査」が五年ぶりに
実施されました。その内容から
は、さまざまな傾向や課題が見
えてきています。

一事業所あたりの平均従業員
は約二十四人、平均年齢は約四
十四歳と、以前よりも企業規模
の縮小化と高齢化が進んでいま
す。設備投資では、従来機器から
の更新以外に、自動化・省力化
に資する設備投資が増えています。
大きな課題としては、分析料
金の低価格化、人材の確保の難
しさが上位となっております。中
部地域の経営環境は、全国平均
よりも良いという結果もでてい
ますが、実際はどうなのでしょう
うか。

愛環協は、全国的に見ても教
育研修や精度管理の充実度では
トップクラスです。それは、これ
までの協会役員の方々の努力や
それを支えて頂いた会員の皆様
の支援あつての成果ではありま
すが、この良き伝統は今後もま
すます発展・充実させていきたく
と考えています。

ただし、気がかりなこととし
て、どの分析機関も中堅実務者
や技術管理者が大変忙しく、十
分な最新情報の把握や自己研鑽
に時間が取れないという実態が
あります。

現場の様々な課題を背負って
業務に励んでおられますが、愛
環協として、そういつた中堅実
務者や技術管理者に、積極的に
セミナーや交流会等に参加して
いただけるような企画をもっと
多く作っていきたくと考えてい
ます。

最後に会員並びに、ご支援を
賜っております関係各位のます
ますの発展と昨年にも増して良
き年になりますよう祈念いたし
まして、新年のご挨拶とさせて
いただきます。

新春を迎えて

愛知県知事 大村 秀章



あけましておめでとうござい
ます。

新たな年が、県民の皆様方に
とりまして、素晴らしい一年と
なりますよう心からお祈り申し
上げます。

昨年は、三月に「あいちビジョ
ン2020」を策定し、来るべき
リニア時代を見据えた大都市圏

づくりに向け、社会基盤の整備
や産業振興、教育・人づくりな
どに全力を注いでまいりました。
また、「ESDユネスコ世界会
議」や「技能五輪・アピリンピッ
クあいち大会2014」の開催
などを通じ、全国そして世界に
向け、愛知を大いに発信するこ
とができました。

今年も、ビジョンの着実な推
進を図りながら、愛知の更なる
飛躍を目指してまいります。

具体的には、日本の成長を
リードする「産業首都あいち」に
向け、燃料電池自動車を始めと
する自動車産業の高度化、航空
宇宙やロボットといった次世代
産業の育成・振興、企業立地の
促進など、愛知の産業競争力を
より一層高める取組を推進して
まいります。

また、グローバル化に対応し
た、活力と魅力にあふれる中京
大都市圏づくりを進めていくた
め、国際戦略をより機動的に実
践するとともに、東京オリン
ピックの開催やリニア開業を見
据え、道路や鉄道等のネット
ワークの強化、観光振興、全国・
世界に打ち出せるスポーツ大会
の育成・招致などに力を入れて
まいります。

そして、こうした愛知を支え
る「人」づくりは何よりも重要で

あり、「人が輝き、誰もが活躍する愛知」を実現するため、教育の充実、女性の活躍促進、子育て支援、障害者福祉、医療の充実などにしっかりと取り組んでまいります。

あわせて、農林水産業の振興、地震・津波対策を始めとする安全・安心な地域づくり、ESDユネスコ世界会議の成果を生かした「環境首都あいち」の取組、さらには、地方分権・行財政改革、東三河県庁を核とした地域振興などにも力を注ぎ、愛知の総合力を一段と高めてまいります。

さて、今年は、二〇〇五年の愛知万博から十周年です。秋には、愛・地球博記念公園をメイン会場に、「全国都市緑化あいちフェア」を開催します。花と緑にあふれた愛知の魅力を感じていただけるようしっかりと取り組み、万博の成果を継承、発信してまいります。

これらの取組を通じ、「日本一元気な愛知」の実現に向けて全力で取り組んでまいりますので、県民の皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成二十七年元旦

「日環協・経営者セミナー in せんだい」
パネルディスカッションに参加して

(一社)愛知県環境測定分析協会
副代表理事 大野 哲

平成二十六年十一月七日に宮城県仙台市で開催されました一般社団法人日本環境測定分析協会主催の「第十七回日環協・経営者セミナー in せんだい」のパネルディスカッションに愛

環協よりパネリストとして参加をさせていただきました。今回のテーマは「危機管理」でしたので、愛環協が愛知県と締結している「災害時における化学物質等の調査に関する協定」について報告をさせていただきました。

日環協・経営者セミナーに愛環協が参加することになったのは、平成二十六年四月に山形市で開催された日環協東北支部と愛環協との合同研修会に河野代表理事、濱地顧問をはじめ七名で参加した際に、愛環協と愛知県が締結している防災協定が、全国的に事例が無いので今回の経営者セミナーでは是非話をしたいとの要請を受けたためです。

この日環協東北支部による経営者セミナーは、東日本大震災後、被災地では初めての開催となります。東北支部のパネリストの皆さんは、被災された時の凄まじい状況やその後の復興について大変貴重な報告をされました。電源が喪失し、電話やテレビなどの情報が少ない中で、津波による犠牲者を一人も出さずに避難できた主な要因は、震災前に構築してあったBCP(事業継続計画)の実行でした。そして被災時や復興段階も、普段からのBCPの構築が大変重要であるとの結論となりました。分析装置の転倒や試薬の流出、コンピュータサーバーの浸水、社員のプロセスの中の改善方法や注

意点についてなど対策を行う上で大変貴重な報告を頂きました。また緊急時における管理者のリーダーシップについては、恐怖に負けずにBCPに基づいて本社からの携帯電話やラジオにより正確な情報を入力し、迅速かつ適切な状況判断を行った成功事例がありました。リーダー教育の上でもこうした貴重な体験を風化させることの無いように後に語り継ぐことが大切であるという結論も得ました。

私の愛環協の発表では、愛知県と締結した「災害時における化学物質等の調査に関する協定」の内容と締結に至る背景と現在の課題、そして愛環協の組織概要と災害緊急時対応委員会の活動実績を紹介させていただきました。セミナー終了後の懇親会の席で全国各地の環境計量協会の方から様々なお話を聞きまして分かったのですが、普段から自治体との連携が愛環協と愛知県ほど取れていないケースが見受けられ、是非愛環協の詳しい話を聞かせて欲しいとの声を多く頂きました。

愛環協では、創立当初から、愛知県環境部や計量センターとの連携を欠かすことなく行ってきました。愛知県には会員事業所の精度管理、教育、最新情報の伝達など様々な面でご指導、ご協力を頂き、また愛環協も愛知県の環境行事への協力等も積極的に実施して参りました。こうした緊密な連携と協力関係が、結果的に適切な環境計量証明事業の推進に寄与したものと思います。日環協・経営者セミナーにパネリストとして参加をさせていただきました。今までの愛知県の

理解と先進的な取り組みがあったり、いち早く防災協定が誕生したことを改めて知る機会となりました。

今回のセミナー参加は、被災をされた東北支部の方々の大変貴重な体験報告をお聞きする場に愛環協が参加させていただくという事で、大変緊張しましたが、おかげさまで参加者の大きな反響を得ることができました。

愛知県と豊橋市と締結しています。こうした災害協定は、整備すべき課題がまだ多くあります。また会員のBCP整備につきましても私たちの環境計量証明事業の社会責任を果たす上で取り組んで参りたいと思います。



セミナー会場

持続可能な未来、教育で築く ESDユネスコ世界会議



広報委員会では百二十号（平成二十六年七月二十日発行）において、環境月間講演会で愛知県環境部ESD会議推進監 吉田英生氏から「『ESDに関するユネスコ世界会議』について」と、題した講演を賜り、時の話題でもESDを取り上げて掲載しております。

このたび二名の委員により、名古屋で開催されたESDユネスコ世界会議取材しました。

その一
この世界会議は、「国連持続可能な開発のための教育の十年」の最終年である今年の十一月に国連教育科学文化機関（ユ

ネスコ）と日本政府の共催により、名古屋市及び岡山市において開催されたもので、ユネスコ加盟の世界百九十五か国から閣僚をはじめ政府代表者や教育関係者を中心に国内外の関係者が集まりました。会議では地球の未来に向けてこの十年間の取組みと二〇一四年以降の方策が話し合われ、ESDの強化とそのための行動を起こすことを宣言する「あいち・なごや宣言」が採択されました。

今、世界では温暖化や生物多様性の危機、また民族対立による紛争やテロのように、地球環境、貧困、人権、平和、食糧など、そして、日本でも地域の過疎化や少子高齢化のような持続可能な社会を阻む課題が山積しています。これらの課題は一部の国による断片的な方策では解決できません。地球規模で開発や平和と合わせて、それらの問題を解決できる人材を育てることが必要です。それがESDの考え方です。

十一月十日からの名古屋国際会議場での本会議に先駆けて、十一月八日から、ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支実行委員会による「あいち・なごやESD交流フェスタ」が名古屋のオアシス21で開催され

ました。オープニングセレモニーとして大村愛知県知事や河村名古屋市長等の挨拶がありました。

大村知事からは、「世界中から多くの人が集まる。これからもかけがえのない地球を守って行く社会作りに向けて、おおいに盛り上がりたい。二〇〇五年の愛・地球博、二〇一〇年のCOP10に続き、二〇一四年のESDで力強いメッセージを愛知・名古屋から発信したい」との言葉がありました。

また河村市長からは、「七十年前は戦争で名古屋のこのあたりも何もない場所だったが見違えるように復興した。おもしろい名古屋、住み良い名古屋がこれからもずっと持続できるよう、みんなで協力したい。これは持続可能な社会を作るESDの考え方と同じで、今回のユネスコ世界会議を是非とも成功させたい」旨の挨拶がありました。

十一月八日から十二日までの交流フェスタ期間中は、オアシス21や久屋大通公園を中心に、トーク&ライブやブース展示、ワークショップのほか、県内市町村のゆるキャラなどが日替わりで登場し、世界会議の成功を働きかけました。

一方、国際会議場では、十一月十日から全体・閣僚級合が

始まりました。我が国からは下村文部科学相などが出席し、各国の政府や企業、NGOの関係者が地球規模の課題を解決するための教育の在り方を議論しました。これに付随して、シンポジウム、ポスターセッションのほか各ブースの展示が活況でした。

（文責 鷹羽幸和）

その二

私は、十一月十一日と十二日の二日間にシンポジウムやセミナーの四座学に参加しました。

NPOをはじめどのような団体や企業が、実際にどのように活動しているのか非常に興味があったからです。その中で二つをご紹介します。

まず、地元を知らずして多くは語らず。最初に目に留まったのは「フェアトレード名古屋ネットワーク（FTNN）」だった。フェアトレードという言葉にすごく魅かれるものがあったからだ。演者のこの会の副代表でもあり、タレントでもある原田さとみさんは、さすがにある原田さとみさんは、さすがにタレントだけあって話し始めてどんどん聴衆を引き込んでいく。流暢にしてわかりやすい。限られた時間を一杯フェアト



原田さとみさん

リードについて話をされた。「フェアトレードは途上国や弱い立場の人々にお仕事の機会を生み出し、森林伐採や農業による土壌汚染などの環境破壊からも地球を守ります。途上国や弱い立場にある生産者に対して公平な条件での貿易を継続的に、経済的な自立を支援することで、貧困問題の解決や文化・伝統、そして環境を守ることが出来る思いやりの貿易です。今フェアトレードが持続可能な未来を繋ぐ。ぜひ名古屋をフェアトレードタウンにしよう。」大方このような主旨でした。

私は今日までまったく原田さんを存じ上げておらず、今日一日で大ファンとなった次第。翌日は原田さんのお店を覗いてみた。原田さんは名古屋テレビ塔の一階にほんの小さなエシカル・ベネロープというお店を構築られており、商品の一つ一つに貧困で苦しむ生産者への温かい支援が伺える。店員の方も丁寧に商品のなれそめを教えてくださいました。(エシカル＝環境や人間動物への負荷軽減、フェアトレード、リサイクル、伝統を生かすことなど環境社会に配慮している様子を表す概念として使われています。)

今を受け継ぐ子どもたちに「あの時の大人は、地球のためにがんばったよね」と言ってもらえたらどんなにステキでしょうか。」という土井ゆきこ代表のパンフレットの一文は一生忘れることはない強い決意と責任を心に刻んでくれました。私も今日からエシカリスト(自分でつくりました)さて、もう一つは「企業が取り組むESD」ということで、伊藤園のシンポジウムに参加しました。タイトルは「みんなが学ぶ食と農のおもてなし・もつたいない・里山のころ」ということであつたが、何せパネリストがすごかつたからで、植物生態学の鷲谷いずみ東大教授、あいち海上の森センター名誉センター長マリ・クリステイヌ氏、食文化の大家「和食会議」会長の熊倉功夫氏ほか層々たる



伊藤園パネラーの皆様

さて、もう一つは「企業が取り組むESD」ということで、伊藤園のシンポジウムに参加しました。タイトルは「みんなが学ぶ食と農のおもてなし・もつたいない・里山のころ」ということであつたが、何せパネリストがすごかつたからで、植物生態学の鷲谷いずみ東大教授、あいち海上の森センター名誉センター長マリ・クリステイヌ氏、食文化の大家「和食会議」会長の熊倉功夫氏ほか層々たる

メンバーだつたからにほかならないが、案の定期待通りのデイスカッションとなつた。それぞれのパネラーがおもてなしもつたいたい。里山のころについてお話をされたが、非常にわかりやすく拝聴できました。さてここからは、企業とESDとの関係についてのちよつと硬い文面となるが、私も十分に分かつたわけではないのでレジメから抜粋してまとめてみた。

ファシリテーターの伊藤園笹谷秀光氏は、(もともと、環境省大臣官房や農林水産省大臣官房審議官など歴任されており)環境・社会的な課題の解決につながるためのポイントがトリプル・Sの経営戦略であると提唱された。トリプルSとはCSR(本業を通じた社会貢献)・CSV(社会との共有価値の創造)・ESD(明日を担う人材

の育成)の三つのSである。製造・販売に携わる企業は大方あてはまるものと思える。最後に環境省選定ESD自由俳句における「おーいお茶俳句」から一句を紹介します。* * * この地球(ほし)の未来を託すESD * * * ESDの必要性がひしひしと伝ってくるではありませんか。(文責 渡辺敏紀)



※ ESDとは「Education for Sustainable Development = 持続可能な開発のための教育」の略です

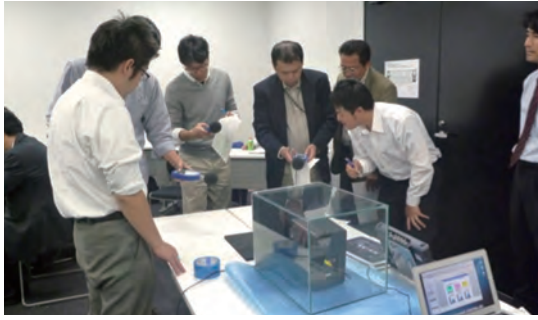
平成二十六年年度騒音・振動測定の共同実験レポート

株式会社テクノ中部

田中 勝

『共同実験の概要』

騒音・振動ワーキンググループでは一般社団法人日本環境測定分析協会中部支部との共催で「周波数分析」の共同実験を開催しました。周波数分析の「講義」「実験」事例発表をテーマとした共同実験は理解・体験・交流が深まる会になりました。



周波数分析実験

テーマ1『周波数分析講義』

リオン株式会社小林氏を講師に招き、周波数分析(オクターブ分析、FFT分析)の基礎について解説いただきました。

続いて、最新の周波数分析機能付き騒音計を使用し、パソコンから再生した音の周波数分析を体験しました。

始めは最新装置に戸惑いを見せる参加者もありましたが、すぐに慣れていただけただようでした。高周波領域でオクターブバンド分析とFFT分析の両方を実施し、その精度差を実感することが出来ました。

テーマ2『周波数分析の実験』

遮音材による防音効果を確認する実験を行いました。音源ボックス内に疑似音源を置き、そこから発生する音を周波数分析し、その結果をグラフ用紙に記入しました。音源ボックスに遮音材のフタをすることで、全体の防音効果と遮蔽効果のある周波数領域を確認しました。

騒音計の表示を確認しつつも、音源に耳を傾け、音の変化を聴感として感じ取ろうとする参加

者の真剣な行動には、第一線で環境測定を担う技術者の集まりである事を垣間見られる場面でもありました。

テーマ3『周波数分析の事例発表』

周波数分析の実務発表では、事前に事例提供いただいた三社様より「高速道路周辺における振動測定」「地下鉄通過時の騒音・振動測定」および「特定施設からの低周波音測定」を紹介いただきました。

どれもマニュアルにない事例で創意工夫されていて、大変参考になる内容でした。現場で測定する上での苦労した点や、測定結果をどのように評価したかなど、多数の質疑応答がなされ、活発な意見交換の場となりました。



『共同実験後の感想』

今回のように、他社の実務事例や測定方法などは、各会員様の興味を抱くところであり、会員同士で情報の共有する良い機会となり、有意義な共同実験

だったと感じました。

参加者からのアンケートにおいても、「FFT分析とオクターブバンド分析の違いが分かった」「会員企業と交流する良い機会になった」と肯定的なご意見をいただきました。また、「理解できない部分があった」「時間が足りなかった」など今後の課題も指摘いただきました。今後、会員の皆様に喜んでいただけるような勉強会・共同実験を実施していきたいと思います。

委員会等活動報告

○総務委員会

委員長 大野 哲
本年度第四回の総務委員会を十二月二日に開催しました。

次年度の「環境に関する喚起標語」及び景況調査方法の見直しを行ったアンケート方法について、審議を行い、理事会に上程いたしました。

○企画委員会

委員長 柴田 金作
本年度第二回の企画委員会を十月二十一日に開催しました。決定している二つのテーマのうち、『研修会・講演会等への



事例発表

応援支援及びアンケートの実施』については九月八日に実施した合同ブロック会議および第五ブロック会議にて実施したもののついて次回理事会に報告をする。もう一つ『環境計量証明にたずさわる皆さんに幅広く意見交換の場を持つ企画』について話し合いを行いました。多く出た意見を集約しこれも次回理事会に報告をし、承認いただき進めていきたい。

○教育研修委員会

委員長 服部 寛和

十一月十一日に環境計量士等研修会を開催しました。参加者三十六名が ①「県民みんなの取組」として大気環境対策を中心に、続いて、②「大気汚染防止法の改正について」で石綿飛散防止対策と大気環境に関する規制を巡る国の動向、③「騒音計と精度管理について」から機器の変遷と精度管理を、④「最新のGC/MS分析とその動向」及び ⑤「コアシエル型HPLCカラムの原理、特長について」から最新機器の性能などを熱心に学びました。最後の「最新GC/MSの紹介と前処理の自動化について」も好評でした。

○技術委員会

委員長 長尾 隆宏

☆水質・土壌ワーキング

平成二十六年第一回共同実験報告会を十二月三日に二十七名の参加で日本特殊陶業市民会館で行いました。

排水基準及び地下水浄化基準のカドミウムの基準値が強化され、公共用水域及び地下水の環境基準のトリクロロエチレン基準強化等の改正がありました。また土壌汚染に係る環境基準では塩化ヒニルモノマー及び一・四・ジオキササンが新規に追加されようとしています。改正された項目等を含めて規定集の見直しを行ってまいります。

☆大気・臭気ワーキング

平成二十七年一月八日に日本特殊陶業市民会館で勉強会を十八事業所二十一名の参加で開催

○広報委員会

委員長 渡辺 敏紀

平成二十六年十月二十九日に第三回の委員会を開催いたしました。『あいかんきょう』百二十二号の掲載記事について協議を行い、執筆者や原稿収集担当者を決定しました。また平成二十

七年度から『あいかんきょう』機関誌に掲載する新企画について協議し、理事会へ諮ることにしました。今回の百二十二号の編集は近藤委員、鷹羽委員で行うことになりました。新年号は盛りだくさんの内容となりました。また引き続きミス・誤りがないようにチェック・レビューをしっかりと行っていきます。

☆水質・土壌ワーキング

平成二十六年第一回共同実験報告会を十二月三日に二十七名の参加で日本特殊陶業市民会館で行いました。

排水基準及び地下水浄化基準のカドミウムの基準値が強化され、公共用水域及び地下水の環境基準のトリクロロエチレン基準強化等の改正がありました。また土壌汚染に係る環境基準では塩化ヒニルモノマー及び一・四・ジオキササンが新規に追加されようとしています。改正された項目等を含めて規定集の見直しを行ってまいります。

☆大気・臭気ワーキング

平成二十七年一月八日に日本特殊陶業市民会館で勉強会を十八事業所二十一名の参加で開催

☆騒音・振動ワーキング

十月二十日に平成二十六年第二回共同実験をウイנקアいちで二十七名の参加で開催しました。内容はオクターブバンド及びFFT等の周波数分析の基礎講義、防音効果を測定する体験実験と周波数分析における事例紹介及びグループディスカッションを行いました。

共同実験結果は近日中にとりまとめ参加各位に配付する予定です。

○ホームページ委員会

委員長 金田 哲夫

平成二十六年第四回ホームページ委員会は十月二十七日に開催、ホームページの更新作業

○対外交流委員会

副委員長 鎌田 務

十月十七日に今年度事業として施設見学会を実施しました。田原市臨海エリア新エネルギー関連施設(田原市役所市民環境部環境課 小久保茂之氏による説明) 豊川浄化センター・豊川

バイオマスパーク構想及び実証実験場(豊橋技術科学大学 環境・生命工学系教授 大門裕之氏による説明) 「下水汚泥で収穫豊か トマト・ノリ」両名とも大変熱心な説明に見学者からも多くの質問が出ていました。(詳細は施設見学会報告記) 双方にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

また、施設見学会アンケートを実施しましたところ、多くのご意見を頂きましたことを感謝するとともに、今後の活動に生かしたいと思えます。

○災害緊急時対応委員会

委員長 鎌田 務

十一月十九日 第三回委員会を開催いたしました。

議題は当協会が愛知県および豊橋市と締結しました「災害時における化学物質等の調査に関する協定」をより進めるために、来年度をめざし、協力企業へのアンケートの実施内容を検討しました。

各事業所での問題点や困窮していることを取りまとめアンケートにしました。

当該事業所においては、大変恐れいりますが、検討結果をとりまとめた結果を二部持参していただき、一部は勉強会前に回収し、残りの一部を用いてディスカッションを行ってまいります。

三月上旬に勉強会で討議した内容を加味した資料を参加事業所に配付します。

☆騒音・振動ワーキング

十月二十日に平成二十六年第二回共同実験をウイנקアいちで二十七名の参加で開催しました。内容はオクターブバンド及びFFT等の周波数分析の基礎講義、防音効果を測定する体験実験と周波数分析における事例紹介及びグループディスカッションを行いました。

共同実験結果は近日中にとりまとめ参加各位に配付する予定です。

○ホームページ委員会

委員長 金田 哲夫

平成二十六年第四回ホームページ委員会は十月二十七日に開催、ホームページの更新作業

○対外交流委員会

副委員長 鎌田 務

十月十七日に今年度事業として施設見学会を実施しました。田原市臨海エリア新エネルギー関連施設(田原市役所市民環境部環境課 小久保茂之氏による説明) 豊川浄化センター・豊川

バイオマスパーク構想及び実証実験場(豊橋技術科学大学 環境・生命工学系教授 大門裕之氏による説明) 「下水汚泥で収穫豊か トマト・ノリ」両名とも大変熱心な説明に見学者からも多くの質問が出ていました。(詳細は施設見学会報告記) 双方にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

また、施設見学会アンケートを実施しましたところ、多くのご意見を頂きましたことを感謝するとともに、今後の活動に生かしたいと思えます。

○災害緊急時対応委員会

委員長 鎌田 務

十一月十九日 第三回委員会を開催いたしました。

議題は当協会が愛知県および豊橋市と締結しました「災害時における化学物質等の調査に関する協定」をより進めるために、来年度をめざし、協力企業へのアンケートの実施内容を検討しました。

また、広域災害時の他府県との協力関係の構築などについても来年度は進めてまいります。改めて会員の協力をお願いします。

愛環協・ちよつといい話

教育研修委員長
服部 寛和

日環協九州支部との
意見交換会について

日環協九州支部と愛環協の意見交換会が七月十五日に行われました。九州支部から岩永達人支部長とインストラクターの丸高真由美氏が、愛環協から河野達郎代表理事と私が参加し、中堅者教育について意見交換を行いました。

岩永支部長らは今回中堅者教育の実情調査を目的に来名されました。九州支部は、支部活動のうち中堅者教育がここ六年間実施されていないとのことです。以前二十年間ほど実施されていたようですが、参加者が少なくなり開催できない状況となっています。全国で唯一実施している中部支部と意見交換し今後の方針決定をしたいと考えています。

構成や参加者数の減少などの問題点も議論しました。

九州は、福岡を除き県単組織そのものが事実上なく、沖繩が会員の約二割を占め、ほかに福岡、鹿児島のほか佐賀と熊本が多いとのことでした。

九州支部は、今回の意見交換会の内容を支部の運営委員会に報告し、今後どうするかを協議していきます。



高校生の化学分析競技
について

愛知県高等学校工業教育研究会総合競技大会（化学分析競技の部、愛知県大会）は、愛知県高等学校工業教育研究会が主催し、愛知県教育委員会ほかの後援を得て毎年開催されます。その後優勝校が東海大会、更に全国大会に出場します。



競技会の様子

今年の愛知県大会は、愛知県高等学校工業教育研究会会員校（七校）から参加校を募り、五月二十四日に愛知県立起工業高校を会場に開催されました。約二時間三十分の競技時間内にキレート滴定により全硬度を測定します。その際に審査員が、実験マナーや作業の安全など作業態度、メスフラスコほかのガラス器具の使用法として試料の秤量、滴定操作など技術度、そして測定値、所要時間等について審査し、優勝校を決定します。当協会は、表彰状（卓越技能賞）を愛知県大会と東海大会に提供し、愛知県大会と東海大会の二つの競技会に競技用試験液を調製して提供しています。また要請があれば審査員も派遣します。

平成二十六年
「施設見学会」に参加して

株式会社ユニケミー
管理 志治 豊吾
（対外交流委員）

平成二十六年十月十七日（金）、対外交流委員会の企画である「平成二十六年度 施設見学会」が開催されました。

訪問先は、「田原市蔵王山展望台」と「豊川浄化センター」です。参加者は、総勢十六社二十四名でした。



蔵王山展望台より



豊川浄化センター（左端＝大門教授）

蔵王山展望台では、田原市役所の方から「たはらエコ・ガーデンシティー構想」の概要について説明を受けました。その後風力発電・メガソーラー発電施設を見学しました。

豊川浄化センターでは、豊橋技術科学大学の大門裕之教授による「広域・産学官・農商工観連携による下水処理場バイオマスパーク構想」と題した講演を拝聴し、引き続き浄化センター・植物工場・海藻工場を案内していただきました。発想の転換による新たなサイクルモデルという印象を受け、大変勉強になりました。

今回も大きなトラブルも無く、無事終えることができました。今後も会員の皆様に見識を広げていただく機会作りの場として、見学会を企画していきたいと思っております。

賛助会員紹介

飯島電子工業株式会社

営業部 竹内 好彦

新年おめでとうございます。
平成二十六年六月より新しく賛助会員となりました、飯島電子工業株式会社と申します。貴会ならびに会員の皆様には今後とも末永くよろしくお願い申し上げます。まずは、弊社の紹介をさせていただきます。

弊社は国内初の酸素濃度計専門メーカーとして一九七二年、愛知県蒲郡市にて現在の前身の会社の環境事業部として事業を発足し、一九八九年に分離・独立しました。創業から四十三年、海と山に囲まれた豊かな環境の地元・蒲郡市において、社員約五十名、独自技術での酸素センサーの開発をはじめ酸素濃度計・溶存酸素計を中心とした各種計測器の開発・製造・販売を行っています。私たちの理念は、酸素を測りコントロールするプロとして、生活の基本である水質の浄化や食の安全、また産業の発展に貢献することであり、さらに技術に磨きをかけ、多くの人を幸せにする使命を担って

酸素の測定といっても非常に広い業種で多様な測定ニーズがあり、そうした現場の声にこたえるべく、様々な計測器やセンサーのラインアップを提供してきました。とりわけ水質分析分野においては、一九八〇年にBOD測定専用の溶存酸素計の開発・販売を開始し、日本全国の環境測定機関様に長くご利用いただいています。

これから賛助会員として少しでも皆様のお力になれるよう、また環境測定業界の発展に貢献できるよう、測定分野においてますます邁進していきますので、よろしく願いたします。



社 屋

★製品紹介

「BOD測定システム BODマスター」



本製品は、業界初となるワイヤレスの通信システムを用いた、BOD測定用のDOメーター（溶存酸素計）です。（JIS K〇一〇二に準拠）
一番の特長は、これまで当たり前であった有線タイプのプローブから、ケーブルをなくした無線タイプにしました。



ケーブルが邪魔になって試料の入ったフラン瓶をこぼしてしまふなどの心配もなく、スムーズな取り回しでフラン瓶の抜き差しができます。測定操作は、プローブ中心にあるSTARTスイッチを一度押すと攪拌を開始し、自動安定判断後、DO値が自動的に測定画面へと通信され表示・保存される仕組みです。

そして二番目に、指示部に関しては、測定状況のイラスト付で見やすい「測定画面」だけでなく、「検体表」の機能を備えています。検体表画面では、一本ずつ測定が完了することにDO値が検体表に転記されます。そして五日後のDO測定値が転記されるとBODを自動演算、消費率も同時に演算し、希釈倍率の適正／不適正を色で識別します。

ケーブルが邪魔になって試料の入ったフラン瓶をこぼしてしまふなどの心配もなく、スムーズな取り回しでフラン瓶の抜き差しができます。測定操作は、プローブ中心にあるSTARTスイッチを一度押すと攪拌を開始し、自動安定判断後、DO値が自動的に測定画面へと通信され表示・保存される仕組みです。

検体表機能によりこれまで手入力だったデータ処理の時間を短縮でき、誤計算などの人為的ミスも防ぐことができる機能です。

三番目に、最大四検体まで同時測定ができる点です。それぞれのプローブで測定を開始した順に、DO値を記録していきます。プローブは仕事量に合わせて最大四本まで増やすことができますので、段階的に比較的ローコストに設備投資が可能です。

プローブの先端に装着する酸素センサーは、ワンタッチ着脱式で洗浄やメンテナンスが簡単にできる構造です。性能面では、当社独自の研磨技術により特殊な非球面を滑らかに仕上げることで高速応答を実現しました。これにより、短時間測定が可能になっていきます。

その他にも、酸素利用速度の測定機能や、便利なオプション製品も用意しています。多くの方々のBOD測定に貢献していければ幸いです。

今ご紹介しましたBOD測定に限らず、酸素濃度測定に関することは、ぜひお気軽に弊社までお問合せください。今後とも、よろしく願いたします。

測定機 関 紹 介

 中日本ハイウェイ・エンジニアリング
 名古屋株式会社 名古屋支店
 道路技術部環境技術課
 志賀 政雄

当社はNEXCO中日本グループの一員として高速道路及び関連施設の施工管理・保守点検・調査業務等を主に行っている会社であり、業務を通じて安全・安心・快適な高速道路空間を利用者の皆様に提供出来る様日々努めております。

当社の事業拠点につきましては、名古屋市中区のオフィスビル内に本社・名古屋支店を構え、北陸地区の拠点として金沢市内に金沢支店、その他中部地方各地に十六事業所を構えております。また施設系・土木系・安全講習の研修施設として技術研修センター(E-MAC)を岐阜県各務原市内に構えております。当社の沿革につきましては、一九七三年に名古屋エンジニアリングサービスク株式会社として設立、一九七五年に名古屋道路エンジニア株式会社社名を変更、二〇〇七年には中日本ハイウェイ・エンジニアリング名

古屋株式会社としてこの間高速道路関連の保守・管理を主業務として行っております。

高速道路に関わる施工管理・点検調査等に加え、高速道路以外では一般住宅のリフォームや公園管理等の事業も行っており、また業務を通じて得たノウハウを基にオリジナル商品の開発も行っております。



本社・名古屋支店



技術研修センター(E-MAC)

当部門は前身である名古屋道路エンジニア株式会社時代より昭和六十二年に音圧レベル、平成六年に振動加速度レベルの計量証明事業登録を行い、以来高速道路関連の騒音・振動調査を主として業務を行って参りました。環境基準・要請限度等の基準値比較の為の騒音・振動測定その他、防音壁設置の為の騒音予測検討、発生源等対策の為の騒音・振動調査なども併せて行っており、高速道路本線上や料金所仮眠施設室内での測定調査など他事業者様からすると非常に特異な箇所での測定を行う事もしばしば御座います。



近年では厳冬期に高速道路上に散布される凍結防止剤の飛散状況調査など騒音・振動とは異なる調査業務についても手掛けているとあります。また当部門は植栽関連の業務も扱っており、高速道路本線及び休憩施設の景観検討・樹木管理の他、各自治体様の指定管理者制度に基づく公園管理等も行っております。



高速道路上での振動測定



中央分離帯での音源調査

最後になりますが、基準値比較の為の調査ではこの結果が適正な値として証明に用いられる事、発生源等対策の為の調査ではこの結果を基に費用を投じた対策施工が行われる事から、職務の重要性及び社会的責任を肝に銘じ、他会員様同様に日々の業務を地道に努めて参りたい次第であります。

趣味のコーナー

株式会社環境公害センター

牛古 誠

「そういう世代なんです」

あらためて趣味は？と聞かれるとなかなか難しいのですが、好きなもの、昔から続いているものをいくつか紹介したいと思います。

ひとつは車です。子供のころはスーパーカーブームだった中でカウンタックに憧れていました。国産車でもバブル期には多くのスポーツカーが発売されクルマ雑誌を見ながらワクワクしていたのを覚えています。時代を問わず車好きなので、トヨタ博物館など古い車も見に行きますし、モーターショーに新しい車を見に行ったりもしています。

また、モータースポーツも好きで、これまた世代として学生のころにはF1ブームがあり、「Powerd by HONDA」という言葉に得も言われぬカッコよさを感じていました。ホンダもF1に復帰するようで楽しみです。さすがにF1観戦とまではいき

ませんが、最近でも鈴鹿まで国内フォーミュラの観戦に遊園地込みで子連れで行きますし、先日も新城市で行われた新城ラリーを見に行ったりと、あまり混雑しない所に出かけています。ただ、所有欲があるわけではないので、乗っている車は普通のミニバンです。



新城ラリーの様子

もうひとつは、スキーです。

学生の頃はスキーブーム最盛期で、泊りがけで野沢温泉や志賀高原などまで遠征し、朝からリフトが止まるまで一日中滑っていました。スノーボードも興味はあったのですが、当時はまだ

高額で、ブームのころには社会人になっていたため、怪我が怖く手を出さずじまいになってしまいました。

結婚して子供ができてからは、しばらくスキーも遠ざかっていきましたが、子供が小学生になり、板が履けるようになってからはファミリースキーとして再びゲレンデへ復帰しています。ただ、昔のように深夜の高速をひた走る気力も、一日中滑る体力もないので、近くて子供向けのゲレンデを選んで行っています。

そんな中で子供や初心者におすすめのゲレンデを紹介します。郡上市にある母袋（もたい）温泉スキー場です。東海北陸道の岐阜大和ICから十三キロメートル、三十分ほどで着きます。高鷲方面のスキーエリアよりも手前にあるため高速の渋滞もありません。

ここはとても小さなスキー場で、ゲレンデは五百メートルほどの斜面がひとつだけです。斜度は十度程度でコブもなく、横幅もそれなりにあるので、初心者にとってはとても滑りやすいゲレンデです。

ゲレンデの横には超初心者用ゲレンデ（約百メートルリフトなし）もあり、スクールもあるのでゼロからのスタートという

人にもお勧めです。

リフトはペアリフトがひとつあるだけですが、連休など特別な日を除けば空いているので、リフト待ちはほとんどありません。スキーだけでなくスノーボードも滑走可です。

麓のリフト乗り場からゲレンデ全体を見渡せるので、子供がどこにいるかすぐわかりますし、見失ってもリフト乗り場で待っていれば必ずそこに来るため、迷子の心配もありません。ちびっこ用には、そりゲレンデ（約百五十メートル）もあり、そり遊びを楽しめますが、なぜかここが最も斜度があり、かなりのスピードが出ます。猛スピードで空を飛ぶ子供をよく見るので、わが子を滑らせるときには少し注意が必要です。麓には母袋温泉の本館があり、食事ができます。通常のテーブル席もありますが元々温泉旅館なので大広間があり、ブーツを脱いで畳の上で食事（お勧めは鶏ちゃん定食）をとることもできます。

本格的なスキーやスノボを求

める人には全く張り合いないゲレンデですが、ファミリースキーでもってこいのスキー場です。実際に滑っているのは、へっぴり腰の初心者、座ったままの

ボーダー、後ろ向きで滑るお父さんと練習する子供、直滑降の小学生だけなので危険も少ないです。

寒い季節にどうしても家に引きこもりがちになりますが、冬のレジャーにお気軽スキーはお勧めです。



上手になるぞ！

今回ふたつ紹介させていただきましたが、よく考えると、どちらも一大ブームを巻き起こしたものです。他のものを考えても、小学生時代のガンダム、中学生時代のファミコン、高校生時代のパソコン、大学生時代のカラオケと、そういう世代に生きてきたんだと改めて考えさせられました。ところで、皆さんは何世代ですか？

環境・時の話題

「御嶽山の噴火の予知について」

一 はじめに

昨年一年も色々なことがあり
ました。フィギュアスケートの
羽生選手の金メダル、葛西選手
のスキージャンプ、テニスの錦
織選手の大活躍、青色LEDを
発明した名古屋大学の天野教授
らのノーベル賞受賞など明るい
ニュースがたくさんあった良い
一年であったように思います。

一方で、広島県の豪雨による大災
害や御嶽山の噴火による悲しい
事故もありました。御嶽山の噴
火を事前に予知することができ
たならば、あれほどの被害にな
らなかつたと思うと、残念でな
りません。今回は、御嶽山の噴
火の予知について考えてみたい
と思います。

二 火山の噴火はどのようにおこるのか

日本は、ユーラシアプレート
と太平洋プレートがぶつかる海
溝沿いに百十もの活火山をもつ

火山大国です。地下のプレート
には、マントルという岩石の層
があるのですが、そのマントル
がプレートの移動により部分的
に溶けてどろどろになり、マグ
マができます。そのマグマが地
震により刺激されて、マグマ自
身が地上に噴出したたり、マグマ
の熱で地下水が熱せられて水蒸
気爆発し地上に噴出したりする
現象が噴火です。

三 噴火の予知はどのようにやるのか

噴火の予知に使われる情報は、
地震と地殻変動の観測データで
す。地震は火山活動の活発化と
かわかりが深いので、詳しい研
究が進められています。

地殻変動も噴火の前兆になる
重要な現象です。火山の地下部
分にマグマが上昇してくると、
地面が伸びたり、盛りあがった
りするそうです。そこで人工衛
星を使って地上の位置を計測す
るGPSを使って、複数の地点
間の距離をはかることで、ほん
のわずかな地面の伸び縮みを観
測することができます。また、傾斜計を使って、地面の
盛り上がりを観測したりしま
す。

四 御嶽山の噴火を予知することはできなかったのか

昨年九月二十八日の噴火の二
週間ほど前の九月十、十一日の
たった二日間、山頂付近で百
四十回を超える地震が観測され
ていました。その前の八月一か
月では、たったの六回しか観測
されていないにもかかわらずで
す。また、噴火当日には、噴火
直前の十分前から、地殻変動も
確認されました。

しかしながら、噴火警戒レベ
ルを通過する気象庁は、これら
の噴火前の前兆から今回の噴火
を予知することができずに、噴
火前に警戒レベルをあげて、避
難を促すようなことができませ
んでした。これは、直近の二〇
〇七年に起きた御嶽山の噴火で
は、地震の異常発生は今回と同
様に認められていたのですが、
今回のような地殻変動は噴火直
前まで観測されなかつたため、
今回は以前の噴火とは状況が違
うと判断されたからです。

今後は、科学的な計測データ
の監視体制を強化するとともに、
データを観測する技術者、火山
地震、地殻変動などの様々な分
野の専門家が迅速に対応を協議
し、そこで科学的に導ける複数
のシナリオを関係機関に迅速に

通知できる仕組みを構築するこ
とがのぞまれます。

五 参考文献

・ニュートン二〇一四年十二月号
(文責 大場 恵史)

環境標語の募集

愛環協では今年度も環境に関
する喚起標語の募集を行います。
愛環協のさらなる発展と成長を
目指し、会員事業所のみなさん
の環境計量に対する様々な思い
を作品にして頂きたいと思いま
す。

【作品テーマ】

自由です。よりよい環境につ
ながるような環境標語をお待ち
しております。

【応募資格】

(一社) 愛知県環境測定分析
協会正会員事業所の社員

【応募方法】

標語は応募申込書に記載の上、
郵送、FAX、Eメールのい
ずれかでご応募下さい。

【応募締切】

平成二十七年一月三十日
(金) ※期限日必着

多数の応募をお待ちしており
ます。

事務局からのお知らせ

○大気・臭気WG勉強会

一月八日(木)十三時三十分～
日本特殊陶業市民会館

第二会議室

○SOP研修会

一月二十八日(水)十時～
日本特殊陶業市民会館

第二会議室

編集後記

前回の百二十一号より広報委
員が二人ずつ輪番制で編集を
行っており、今回の百二十二号
の編集は近藤委員、鷹羽委員が
担当しました。

「あいかんきょう」機関誌が
今後も更に皆様に愛されるよう
努力してまいりますので、よろ
しくお願ひ申し上げます。

発行人 (一社)愛知県環境測定分析協会 河野 達
代表理事
〒460-0022
名古屋市中区金山1-2-4
アイディエリア405号
TEL・FAX 052-321-3803
E-mail aikankyo@nifty.com
編集 (一社)愛知県環境測定分析協会 広報委員